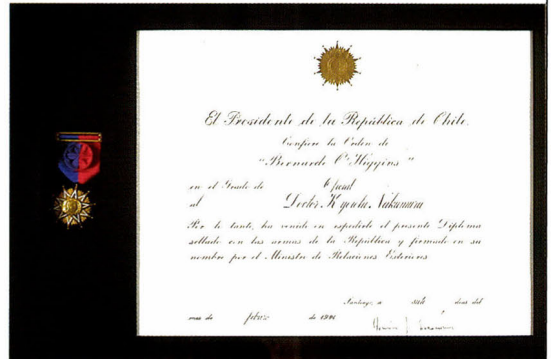


日本医学界初の叙勲——チリ共和国政府から4氏

昨年、筑波大学基礎医学系病理の中村恭一教授、国立病院九州がんセンター放射線科の清成秀康部長、新潟大学医学部第1病理の渡辺英伸教授、それに都立駒込病院病理科・小池盛雄部長の4氏は、チリ共和国政府から消化器癌早期診断の指導教育の功績に対して“ベルナルド・オーヒギンズ勲章 (Bernardo O'Higgins)”の叙勲を受けた(写真)。チリ共和国には、このベルナルド・オーヒギンズ勲章と南十字星勲章の二つの勲章があるが、学術文化部門で貢献したのについてはベルナルド・オーヒギンズ勲章である。“ベルナルド・オーヒギンズ”はチリ国の“建国の父”と言われた人で、この叙勲は高く評価したい。

チリ国保健省は日本の国際技術協力事業団(JICA)の後援により、毎年1回、サンチャゴ市にある保健省パウラ・ハラケマダ病院・胃癌診断センター(センター長はチリ大学医学部内科ペドロ・ヨレンス教授)で国際消化器病研修会(Curso Internacional de Avances en Gastroenterologia)を行っているが、4氏



は研修会の講師として長年にわたって参加し、貢献してきたものである。その研修会には中南米諸国から多数の参加者があり、平成2年3月に行われた研修会には、参加者総数は約500余名にも達したということである。

(早期胃がん検診協会 白壁 彦夫)

□海外文献紹介□

H₂ ブロッカーと胃癌のリスク

Histamin-2- receptor antagonist and gastric cancer risk: *La Vecchia C, et al* (Lancet 336: 355-357, 1990)

H₂ ブロッカーは胃酸分泌を抑制し、細菌増殖やニトロソアミン産生を介して胃癌発生と直接的な関連があるのではないかと憂慮されているが、長期投与についての資料がない。H₂ ブロッカーと胃癌のリスクについて case-control study を行った。

ミラノ市周辺の病院で組織学的に胃癌と診断された563例と、対照群としての外傷、整形外科など腫瘍や消化器疾患以外で同じ病院に入院中の患者1,501例を選び、訓練されたものがインタビューを行って、社会経済的因子、性格・趣味・嗜好、病歴およびH₂ ブロッカー服用開始の時期を調査した。胃癌患者群は男性

347人、女性216人、平均60歳(27~74歳)であり、対照群は男性855人、女性216人、平均58歳(23~74歳)、ほぼ同地域の者を選んだ。両群は喫煙歴に差はないが、胃癌患者群のほうがやや年長であり、教育レベルが低かった。

胃癌患者群の9%、対照群の4.7%に胃潰瘍の既往があり、対照群を1としたときの相対的危険率(RR)は2.0(1.4~2.8)であった(カッコ内は95%信頼限界)。潰瘍と診断されて5年以内に癌になったものに限定するとRRは4.6(2.4~8.9)、5~9年後とすると1.5(0.8~2.1)である。胃癌患者群の7.1%、対照群の6.3%に十二指腸潰瘍の既往があった。H₂ ブロッカー服用歴では、癌診断の前5年以内に使用を開始した者のRRは3.1(1.8~3.5)、5~9年前開始例は1.5(0.7~3.3)、10年以上前から

開始した例では0.2(0.03~0.8)であった。

H₂ ブロッカーを長期に使用した者で胃癌のRRが低く、5年前以内に潰瘍と診断されている者で著しく高い。インタビューによる retrospective な調査で対象者の記憶にたよるところが大きく、正確な使用期間や使用量に関して不明な点が多いが、そのことを考慮してもなおH₂ ブロッカー服用開始後5年以内の胃癌発生が多いのは、早期の胃癌が正しく診断されていない可能性が十分考えられる。本調査は、H₂ ブロッカーの長期服用が胃癌のリスクを増すものでないことを再確認し、早期胃癌の正確な診断の必要性を再度強調するものである。

(関東通信病院消化器内科

中村栄子 抄)